

本日は、国際協議会についての説明と、私の地区方針についてお話をさせていただきます。まず、毎年ロータリーは国際協議会を経て、会長エレクトから新しい方向性が決まります。本年は1月28日から2月3日にサンディエゴで行われましたが、会場ではポリオの写真が大々的に使われ、ポリオにとっても力を入れていることが示されました。200以上の国と地域から532地区のガバナーエレクトが集まりました。日本からも34地区から参加しました。

次に、私が掲げております地区方針についてお話させていただきます。まず財団の問題ですが、アーチ・克蘭クさんが発想いたしました。地区大会、ガバナー職もこの方の発案です。貧しい生活の中、フルートを独学で勉強され、後に多数の会社のオーナーを務められました。1911年にロータリークラブを創り、RIの会長にもなりました。1947年ポール・ハリスの死去にともない、記念基金を集め、財団活動ができるようになりました。

財団は最近、＜世界理解＞と＜世界平和＞を強く掲げております。これは1940年のハバナ大会でポール・ハリスの言った言葉が土台になっています。この頃、ロータリアンはナチスドイツに迫害を受けていました。多くのロータリアンの平和への努力を伝えた言葉でした。今年の6月にソルトレイクで行われた国際大会では、ウィリアム・H・ゲイツさん（ビル・ゲイツ氏のお父様）がポリオ撲滅の為に多額の寄付をしてくださり紹介されました。財団の寄付目標は平均120ドルという事になっております。48クラブ、76%が目標達成しており、地区は全国第2位となっております。米山奨学会につきましては、普通寄付5,000円、特別寄付20,000円をお願いしております。こちらは12年間トップを続けております。

会員増強につきましては、日本では1995年、13万人会員がいたのが、毎年減って、今年の6月末では9万7,000人にまで減ってしまいました。世界的に見ますと、過去5年間で日本、北アメリカ、ラテンアメリカ、オーストラリアの4地区でだけ減っております。当地区では半数以上のクラブで現状維

持または増員となっております。一人ひとりのロータリアンの気持ちの持ち方が大きいと思います。

寄付目標、会員増強につきまして説明させていただきましたが、では、どうしていけば良いかですが、その為に実際に我々が行ってきたことをもう一度見てみたいと思います。まず、ポリオプラスにつきましては20年前125ヶ国、毎年35万人でしたのが、現在は4ヶ国、444人に減りました。この500万人を救ったのは、私たち普通の人々だという事実を忘れてはいけません。

ロータリーは世界最古の奉仕クラブです。120万人を要する組織はたった4人で始まりました。資金もメンバーも歴史も伝統もない4人が社会に貢献しようと、夢と志のみで始めたことが現在に引き継がれています。ポール・ハリスは「ロータリーは、私の少年時代のニューイングランドの人々の特性であった寛容と善意と奉仕の精神から生まれた」と言っております。後に同志社大学の創始者となった若者、新島襄がアメリカへ密出国した際、日本でキリスト教の大学を創りたいという彼の気持ちに賛同した人々が次々に寄付を申し出たようなエピソードが、当時のアメリカ人の気質をあらわしていると思います。また、政府の招聘で日本にやって来たクラーク博士はたった8ヶ月の日本滞在でしたが、明治の青年たちに勇氣と志を植え付けていきました。有名な Boys be Ambitiousという言葉は、当時のニューイングランドの人々の誰もが考え得る言葉だと思います。そうした一人ひとりの気持ちが1905年、西部開拓で荒れたシカゴの町にロータリークラブを創業したのではないのでしょうか。

ポール・ハリスは、人間の進歩を長く抑えることのできる唯一のものは先例主義だと述べています。先例になってくると、自己責任のないものになります。今までそうであったから変えないということは、勇氣がないという事にもなります。

地区方針では、ともかくメイクアップをしてほしいということも掲げています。ひとつのクラブはひとつの個性です。ぜひ、みなさんも色々なクラブを